

記録映画

2006年 群像舎作品

支援  文化庁

文部科学省選定（16ミリ/カラー/65分）

# 広がれ アサザの夢

～百年後にトキが舞う霞ヶ浦を～



アサザ(ミツガシラ科)

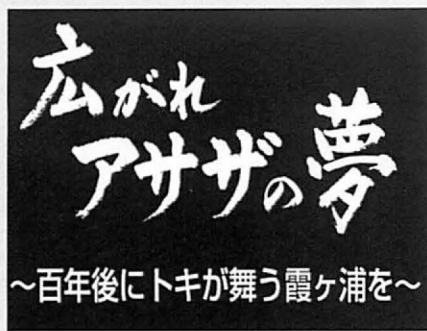
監督/岩崎雅典

語り/竹下景子



「自然と、その自然が生き返る力というもの。それが一番すごいなあと思いました。アサザの植え付けから始めてこの10年で、湖も、田んぼも、それから周辺の森まで生き返ったわけですから。本当にすごいプロジェクトですね。アサザプロジェクトの飯島さんやスタッフ、そして参加した子供たちが、本当に生き生きとした笑顔で、とても楽しそうにしているのが印象的でした。一度も行ったことないので、霞ヶ浦・北浦に行ってみたいなあ～と。今度、私もお手伝いに行きます。」

企画・制作/NPO法人アサザ基金・群像舎



2006年 群像舎作品 (16ミリ/カラー/65分)  
文部科学省選定



NPO法人アサザ基金  
代表 飯島博さん

## 湖と森と人をつなぐ アサザプロジェクト



アサザ植え付け



飯島さんの出前授業



そだの波消し



田植え

### [解説]

日本で2番目に大きな湖、霞ヶ浦・北浦・・・。  
開発により水は汚れ、自然も大きく失われました。  
誰もがあきらめかけていた時、湖に咲く小さな花が人々に勇気を与えてくれました。  
その花は絶滅危惧種の水草、アサザ(ミツガシワ科)。  
アサザの花畑をシンボルにした“アサザ・プロジェクト”は1995年発足以来、独創的な活動を続けてきました。  
流域の小・中学校をはじめ、市民、企業、行政、農林水産関係者など、延べ12万人が参加する大プロジェクトへと発展しました。  
湖で見つけた小さな花(夢)は人々を結びつけ大きな夢へと広がりました。  
100年後にトキの舞う湖を目指して、21世紀の循環型社会のモデルとしてアサザプロジェクトは今、環境分野を越えた多くの人々から注目を集めています。

### [ストーリー]

- 茨城県の霞ヶ浦・北浦は、かつてワカサギやシラウオ漁で賑わっていた。だが今は、外来魚のブルーギルやブラックバスが増え、漁獲量は4分の1ほどに。湖の再生に取り組むNPO法人アサザ基金の代表飯島博さんは、漁業者たちと共同でマコモを植えることから事業を始めた。
- 一方、飯島さんは湖周辺の小学校を訪ね出前授業も始める。子供たちにアサザの大切さを知ってもらい苗を育ててもらった。
- また潮来では、ビオトープづくりを実践。そのビオトープづくりは各小学校に瞬く間に波及。これまで3県28市町村の170校がアサザプロジェクトとの取り組みに参加している。
- 林業者と漁業者の仲も取り持つ。間伐材を利用して消波堤をつくるアイデア。これには国も注目。大規模な事業を始めた。
- 最近では里山の整備にも着手。湖の水源里山を復活させることで湖の浄化をうながすのが目的。休耕田を利用した田んぼづくりには、大企業の社員や家族が参加。地場産業と共同で地域活性化を目指している。新たな展開として、外来魚対策。漁協の協力のもと水揚げした外来魚を買い上げ、地元の有機農業団体とパートナーシップ制をとり、魚粉化した肥料で野菜や卵をつくり始めた。“アサザの夢”は、社会のあらゆる分野へとますます広がっていく。

### [スタッフ]

監督・脚本 岩崎雅典  
語り 竹下景子  
撮影 加藤孝 大洞陽佑  
田中希 明石太郎  
音響効果 吉田茂一  
助監督 渡辺直樹 山本伊知郎  
CG制作 シネブレン  
編集スタジオ データ・アート  
MA 協映スタジオ  
現像 ヨコシネ ディアイエー

### [協力]

日本電気(株)  
きたうら広域漁業組合  
霞ヶ浦漁業協同組合連合会  
白菊酒造(株)  
小倉味噌(株)  
東田中自治会  
潮来ジャランボプロジェクト  
実行委員会  
環境グループ石岡  
NPO法人 エコタウンほこた  
(有)霞ヶ浦粗糞組合  
(株)アズマックス  
工房オカリナアートJOY

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101